

立命館大学アート・リサーチセンター  
 文部科学省 共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」  
 2018 年度 共同研究成果報告書〔研究費配分型〕

2019 年 4 月 14 日 提出

|   |            |
|---|------------|
| 1. 研究課題名  |            |
| 元禄歌舞伎のデジタル再現のための基礎的研究<br>(英文標記: Fundamental research for digital reproduction of Kabuki in Genroku era) |            |
| 2. 研究代表者  |            |
| 氏名(ふりがな)  | 所属機関・職名    |
| 岩井 眞實(いわい まさみ)  | 名城大学・教授    |
| 3. 研究分担者 (合計: 名)  |            |
| 氏名(ふりがな)  | 所属機関・職名    |
| 鳥越 文蔵(とりごえ ぶんぞう)  | 早稲田大学名誉教授  |
| 佐藤 恵里(さとう えり)   | 高知女子大学名誉教授 |
| 東 晴美(ひがし はるみ)   | 群馬女子大学講師   |

|  |
|--|
| 4. 研究課題の概要   |
| <p>歌舞伎は、京都が発祥の地である。その歴史を辿ると、元禄歌舞伎時代があり、世界の演劇全体に比べても、最も洗練された演劇が京都を中心として展開していたことに気づかされる。しかし、元禄歌舞伎には、映像もなく、台本が存在している作品もただ 1 点が現存しているに過ぎない。しかし、演劇興行によって生み出された周辺資料は、数多く残されており、これらを有機的につなぎ合わせれば、当時の演劇の実態を再構築できる。これまで、それらの資料は単なる資料群として個別に扱われることがほとんどであったが、デジタル・アーカイブの上に構築する有機的な資料群は、いわば三次元の世界に再現を可能である。</p> <p>対象となる資料は、絵入狂言本、役者評判記、あるいは、歌舞伎番付である。なかでも、絵入り狂言本は演劇舞台を表現した絵画とともに、筋書、出演者の配役などが詳細に記載されており、2018 年度は、絵入狂言本を中心に、まずは網羅的なデジタル・アーカイブ型研究として推し進め、そこに含みこまれる絵画表現とテキスト表現から立体的に情報を抽出して、元禄期の演劇舞台では何が行われていたかを可視化する。</p> <p>その基礎作業として、2018 年度は国内外に存在する絵入狂言本の所在調査を終了する。併せて、各所蔵機関の書誌調査をも行う。</p> |
| 5. 研究成果の概要   |
| <p>2018 年度の成果として、国内外に存在する絵入狂言本の所在調査をほぼ終了したことがまず挙げられる。この後個人蔵のものが発見される可能性はあるにせよ、主な所蔵機関の所在調査は 99% 完結したとあってよい。</p> <p>この所蔵調査をもとに、ARC の「絵入狂言本データベース」にその画像をアップロードする作業をすすめた。このデータベースは国文学研究資料館「新日本古典関係総合データベース」、国立国会図書館デジタルコレクション、東京大学霞亭文庫の画像データベース等、公開された機関の画像データベースにリンクが張られている。また、画像をネット上に公開していない機関についても、内部閲覧用に画像を閲覧できる仕組みにしている。これまで異なる機関に所蔵される同一題名の狂言本を並べて対比することは困難であったが、このデータ</p>  |

ベースによって PC やタブレット上で並べて閲覧することができるようになった。

所在調査の結果を承けて、各所蔵機関の書誌調査を進めている。書誌調査については、研究代表者および研究分担者が過去に個別に行った網羅的な書誌調査記録がある。これらをもとに、統一的な書誌データを製作する作業に入っている。そのために各所蔵機関への再調査を行った。

また、新出・未見の絵入狂言本数点についても実見の上書誌データをとることができた。